

氏名	熊 澤 一 真
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3824号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Prediction Markers for Respiratory Distress Syndrome: Evaluation of the Stable Microbubble Test, Surfactant protein-A and Hepatocyte Growth Factor Levels in Amniotic Fluid (呼吸窮迫症候群の予知マーカー:マイクロバブルテスト, 羊水中 のSP-A, HGFの評価)
論文審査委員	教授 谷本 光音 教授 清野 佳紀 教授 森田 潔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

早産児の呼吸窮迫症候群(RDS)による死亡率を減少させるには、出生前の胎児肺成熟度の正確な評価が重要である。今回、stable microbubble test (SMT)、surfactant protein-A (SP-A)、hepatocyte growth factor (HGF)の RDS 予知に対する有用性につき、妊娠 37 週未満の羊水 55 検体を用いて検討した。その結果、SMT の感度 76.5%、特異度 84.2%、positive predictive value 68.4%、negative predictive value 88.9%であり、SP-A では 88.2%、65.8%、53.6%、92.6%であった。しかし、HGF は SMT、SP-A ほど有用でなかった。以上より、SMT が早産児の RDS 発生を予測する上で迅速、簡便な信頼度の高い検査であること、更に SP-A 測定を加えると診断率が向上することを報告した。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、早産児において重篤な合併症である呼吸窮迫症候群 (RDS) の死亡率を減少させるための発症予知法として3つの検査法について臨床的有用性を検討している。ひとつは従来から繁用されている SMT、さらに最近明らかになったサーファクタント蛋白として SP-A、そして増殖因子としての HGF の3項目につき、羊水検体を用いて解析した結果は SMT と SP-A を組み合わせることにより、37 週未満の 55 羊水検体において高率に RDS の予測可能であった。また HGF 値については妊娠周令の影響が強く、RDS 予測の有用性は他の2つに比して低かった。以上の結果は RDS の早期発見において重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。